

# ご存知でしたか？表紙の彫像



彫像名 「陽だまりの中で」(ブロンズ、1997年4月)  
 作者名 谷口淳一(1952年生まれ 現在京都市在住)  
 所在地 南篠崎5丁目2番地先 東井堀親水緑道(健康の道)

この作品の主題は母性愛です。母性愛はあらゆる人間関係において最優先事項であるとの作品は訴えます。父親の愛に比べて母親の愛は数十倍も偉大であると日頃から考えておるぼくは、とある日、散歩の途中、この「陽だまりの中で」を発見しました。しばらく眺めながら、これは逸品だとの思いを深めたのです。  
 ぼくは制作者の谷口氏については何の知識も持っていませんでした。何をめざそうとしておるのかも知りませんでした。この作品から理解したのは、彼の制作意図のみです。

ぼくがこの作品に見入った日は、まことにのどかに太陽の光が地上に降り注いでいました。この母子像の母と子はその光を浴びながら、ともに未来を考えていたのです。その未来がどのようなものであるかは誰にもわかりません。わからなくともいいのです。大切なのは、陽だまりの中で母と子がゆたかに存在しておるという事実です。そして、このふたりの間にはゆるぎない信頼が存在します。陽だまり、母と子、信頼、このみつどもえが作品を逸品たらしめています。願わくば、近隣の人びと、その他のみなさんがこの母子像の前に立って、しばし今という時を考えていただきたいと思います。  
 国際11期 大宮信一郎

## 子どもたちの明るい未来を江戸川区から発信!!

江戸川区子ども未来館・篠崎子ども図書館は元々、篠崎図書館があった場所に平成22年に開館しました。未来館は、子どもたち(概ね小学生を対象)が「学び」や「探求」活動をする基地です。化学や生き物、自然との触れ合い、もの作りや経済、法律等、様々なテーマを継続的に実際に体験しながら学ぶことができます。講座・教室では、区民講師や大学・企業・NPO等の専門講師、多くのボランティアの方々(人生大学のOB・OGも活躍中)が、子どもたちの学びを支援しています。そして何よりも、豊かな自然や優れた技術を持つ企業や町工場等、江戸川区の魅力を生かしたプログラムがたくさん提供されています。今回、見学した、ゼミ「ビブリオバ

トル」と「屋上菜園(白菜等の収穫)」でも、どちらも生き生きと楽しそうな子どもたちが印象的でした。こうした学びの活動の中で欠かせないのが図書存在です。子どもたちは、図書館の本を利用して調べることができます。また、子ども図書館では子どもたちが利用しやすいように、棚を低く設定し、上段に展示してあるお勧めの本が落ちないような工夫もされています。小さな子どもたち向けの「お話し会」等のイベントで使用するコーナーは床暖設備があります。

最後に、両館長から「これからもたくさん魅力的なプログラムを提供していきますので、是非、多くの子どもたちに未来館・子ども図書館に来て、新たな発見をしてほしい!」とメッセージをいただきました。みなさんも一度、訪れてみませんか?

お勧め本  
 「めいぐるみおとまりかい」(子ども図書館がモデル)  
 「憲法と出会う」「民法と出会う」「刑法と出会う」(子ども未来館の法律ゼミを書籍化)  
 未来館 Facebook、twitterあり  
 子ども図書館長(篠崎図書館長兼務) 吉井 潤  
 子ども未来館長 藤原 達也

取材：(国際12期)大島なお美(子ども12期)一山輝江



### 同窓会の窓



3月5日は虫が冬ごもりから覚めて穴から出てくるという啓蟄。24節気の一つですが、この他にも雨水・清明・霜降等々、趣のある表現が多く、二千年以上にわたり、又多少気候が違う日本でも使い続けられている理由の一つかと思えます。尤も最近のように異常気象が続くと通用しなくなる時代が来そうと心配ですが、閑話休題。冬眠もせず・寒さにも負けず社会貢献活動中の江戸川総合人生大学卒業生。その直近の具体的な活動計画が、同窓会ホームページ「グループ活動」の処にある「グループ活動一覧表」に掲載されています(都度更新。江戸川総合人生大学ホームページから見えます)。

ジからも見に行けます)。社会活動体験を追加体験したい11期生、そろそろ自分の活動について考え始めた12期生の方々、いずれにとっても参考になると思っていますので見て、参加して下さい。また、拙文をお読み頂いている区民の皆様にもぜひご覧頂き、人生大学卒業生の活動の一端をご理解頂ければと存じます。

同窓会会長 前田 直義(国際9期)  
 同窓会ホームページ <http://jinseidaidousou.web.fc2.com/>  
 人大ボラ連メールアドレス jindaiboraren@yahoo.co.jp

### 編集：「ひと あい えどがわ」編集委員

- [11期生] 加藤道雄、叶内元也(まち) 大宮信一郎、柳澤千夏(国際) 長倉尚子、山内康(子ども) 大野一雄、中村高興(介護)
- [12期生] 榎本清一、箱島実(まち) 大島なお美、白坂敬三(国際) 秋山ヨシ子、一山輝江(子ども) 熊谷富雄、西峰正二(介護)

### 編集後記

年が明けて2か月が過ぎようとしていますが、今年がリオのオリンピックイヤーということは4年後には東京オリンピック・パラリンピックが開催されることとなります。選手・関係者の皆さんには頑張ってくださいと思います。新しい国立競技場の建設も色々な問題を抱えながら決定しました。江戸川区で競技が開催されるならボランティアとして縁の下から関われば幸いかと思う今日この頃です。  
 新しい編集委員が加わった31号はどうだったでしょうか。号を重ねる度に読みやすく、手に取っていただける情報紙になることを願っています。  
 編集長 加藤 道雄(まち11期)

●編集記事に関するお問い合わせは、大学事務局まで 電話：03-3676-9075/FAX:03-3676-6545

# ひと あい えどがわ

No.31

発行日 / 2016.3.1  
 創刊日 / 2007.4.10



<http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>

## 社会貢献活動レポート

- ◆江戸川・地域・共生を考える会
- ◆東京ベーター
- ◆外国人健康サポート(英語)同好会
- ◆江戸川総合人生大学朗読会



「陽だまりの中で」  
 解説は4面に

江戸川総合人生大学発

人と地域をつなぐ情報紙

発行日 / 2016年(平成28年)3月1日

発行 / 江戸川総合人生大学

〒133-0061

江戸川区篠崎町7-20-19 篠崎文化プラザ

## 12期生クラス紹介

- ◆江戸川まちづくり学科  
 えどがわの種探しの授業は江戸川の土手から始まります。水田があった頃のたんぼに水を引いていた小川を歩き、知らない水中の生き物や、雑草の小さな花の名前を考えます。自然を残したピオトープは私達の授業で学ぶ小さな自然への入口です。
- ◆国際コミュニティ学科  
 一人一人が「何かを学ぼう」という真剣な空気の中にも、同じ学科を勉強しているという連帯感のようなものが感じられ、新鮮で楽しい授業です。今後、交流が深まれば素敵なクラスになっていくような予感がします。多文化共生を学ぶ学科です。
- ◆子ども・子育て応援学科  
 子どもの発達や子どもを取りまく環境の変化を学び、子どもの活動の見守りや子育て中のパパやママを応援する学科です。「子育て環境」や「成長発達」についての講義を受け、討論を重ねる度に毎回新たな発見がある笑いの絶えない楽しいクラスです。
- ◆介護・福祉学科  
 私たちのクラスは、地域との繋がりを求める力強い仲間です。二年間信頼作りに努め、卒業後に介護・福祉に関わるボランティア活動に活躍することを願い、知恵を出し合い、楽しく学ぶ希望に燃えるクラスです。



人生 地域のために自分の力を活かしてみたい。江戸川総合人生大学はそんな方を応援するために  
 大学 江戸川区が開設した大学です。(※学校教育法で定める正規の大学ではありません。)

# 社会貢献活動レポート

人生大学での学びをいかして多くの仲間がいろいろな方面で活動中。  
その現場をレポートしました。

## 江戸川総合人生大学朗読会

取材：(まち11期)加藤道雄・叶内元也

「本の世界を感じてもらいたい」との思いが、江戸川まちづくり学科2期生、堀川和男さんを代表に「江戸川総合人生大学朗読会」を発足させました。

2007年1月20日、タワーホール船堀3階応接会議室にて4名で初演された第1回朗読会がそのスタートになります。以降年6回、奇数月の最終土曜日を定例発表会の日とし、2016年1月30日(土)に、第55回を同じ会場で10名となった仲間と迎えました。

この間「篠崎図書館」が推薦する「朗読会」になることを目標に、人生大学の活動室で月2回の練習を重ねてきました。その成果が2013年、14年、15年と篠崎文化プラザ講義室(定員50名)で「春の朗読会」開催という形で実りました。16年は、3月27日(日)に決定しています。図書館が主催し、広報と参加申込の受付も協力してくれています。

「今までは『自分で読みたいものを楽しむ』を基本としてやってきましたが、これからはより多くの方々に『物語の世界に浸っていただく』ことを目指して、一人一人のレベルアップが必要と考えています。他の朗読グループやカルチャー教室に参加している会員もいますので、その成果を皆で共有し、発表会に繋がたい。一人での朗読から複数での朗読にもチャレンジし、将来は他のボランティア活動の人たちと手を携えて裾野を広げたい。大学に入って江戸川区(地元)のことが少し分かるようになったことが、社会活動に大きく影響していると思うし、自分が楽しむことが、活動に繋がれば幸いです」と熱く語っていた堀川さんの姿が印象的でした。「読む」という誰もが経験している身近なことで、社会貢献を見据える姿に共感し、意義を感じました。

(連絡先)堀川 和男 090-5756-3393



紙芝居も含む練習風景

## 外国人健康サポート(英語)同好会

取材：(国際11期)大宮信一郎  
柳澤 千夏

この会は、代表の柳さんが入院中に知り合ったアメリカ人の患者さんが、病院から英語での医療説明がなかったとの不満を聞いたことがきっかけでした。自分自身も海外で外国人として生活した実体験から、在住外国人の“助けを求める声”を聞こうと考えたとのことです。会は、江戸川区民として何か出来ることはないかとの彼の発案に賛同した国際11期の仲間18人で、平成27年7月29日に立ち上げた同好会です。

今は月2回の学習会です。まずは、あいさつや「どうしました?」「だいじょうぶですか?」等の優しい英語から、難しいものでは「国境なき医師団」など先輩ボランティアを参考にしながら医療用語も学習しています。

中には英語の堪能な方もいますが、ほとんどが学生以来の英語の学習です。辞書を片手に難しい顔をしている姿も見受けられました。

立ち上げたばかりで、まだおもだった活動はしていませんが、自分たちに何が出来るか会員どうし在住外国人のための「お助け隊」を目指しています。

国際コミュニティ学科で在住外国人を取り巻く現状を知り、年齢や人生経験も異なる仲間が同じ思いで集まっています。同好会には課題もたくさんあると思いますが、卒業後も学びの成果を地域に生かしたいとのこと。

今後について柳さんは、充実した国際コミュニティ作りを目指し区内在住の外国人のために目に見える「お助け隊」として会を発展させたい、と熱っぽく語っていました。

(連絡先)国際11期 柳 義人 e-mail:workprofityanagi@yahoo.co.jp



学習風景

## 東京ベテル

取材：(子ども11期)長倉尚子・山内康

葛西駅から歩いて15分ほどの閑静な住宅地に親子で集える子育て広場、「NPO法人ファミリーセンター東京ベテル」があります。ベテルという名前の由来は、聖書の中にある神様が降りてきたところで、豊かで平和な場所をベテルというそうです。子どもとママが集まる場所がそんな風になるようにと名付けられました。

主宰は社会福祉士、保育士の資格を持ち、人生大学の講師を勤める森木美佐子先生。15年前に活動を始めて、現在は一軒家で、まるで実家に帰ってきたような雰囲気の子育て広場です。

お邪魔したのはお誕生日会でした。毎月誕生月の子どもとママ達や遊びに来ていた他の親子も交えて、和気あいあいと始まりました。誕生日会には毎回子ども・子育て応援学科5期生の庄司信幸さんが子ども達のために手作りの遊び道具のプレゼントと、絵本の読み聞かせ、手遊びなどを披露してくれました。庄司さんは牛乳パックやペットボトル、折り紙など上手にリサイクルしながら子どもが笑顔になるような遊び道具を作ってくれます。

東京ベテルにはバザーやイベントの時などに、人生大学の他の卒業生もボランティアで来ています。まるで古くからの知り合いのような感じでママ達と雑談しながら、さりげなくサポートをしていました。

(連絡先)NPO法人ファミリーセンター東京ベテル  
Tel・Fax 03-3686-8350 <http://tokyo-bethel.org>



誕生日会の様子

## 江戸川・地域・共生を考える会

取材：(介護11期)大野一雄・中村高興

介護・福祉学科の1年次の授業は、主に座学で認知症や介護等の基礎を学びますが、知識の習得だけでなく、現在介護施設等を運営・指導されている方を講師に招いています。それも村田幸子学科長が実際に現場を確認され、人生大学の講師にと依頼されています。そのため現場の実情もうかがえる学習内容となっています。

なかでも5月の授業で、富山県で介護事業を展開している「富山型デイサービスこのゆびと一まれ」代表の惣万佳代子先生の講義には熱い感銘を受けました。富山で仲間3人と「子どもやお年寄りも障がい者もお互いに支え合いながら、同じ屋根の下で、小規模であたたかい、ふつうの日常生活を目指した共生型のデイケアハウス」を開設して、以来22年を経てその理念が現在は全国に普及しています。

私たちは江戸川区でも富山型デイサービスを開設している人がいると聞き、現地を訪問しました。南葛西の「区立あつたかハウス」を利用して、「江戸川・地域・共生を考える会」が「一緒がいいね ひなたぼっこ」を運営していました。代表の高村ヒデさん(4期卒)が、人生大学の授業で惣万先生の取り組みを知り、先生に会い富山の現場を見てすぐに江戸川区にも開設したいとの願望がつのり、24年6月に開設しました。現在の運営は第三日曜日が主体で水・金曜日開催されていて、決められたスケジュールはなく、歌・トランプ・塗り絵、野菜作り等それぞれが楽しそうで、昼食時は全員が後片付けにも参加していました。

取材の最後に、高村さんの現在の心境とこれからの方針をお聞きしました。「人生大学の授業から、惣万先生との出会いがあり、思わぬ人生が開けました。富山型の理念に基づく居場所づくりを広めていきたいと思っています。運営は喜怒哀楽の毎日ですが、自由で明るい障がい児の笑顔や、利用者さんの『ありがとう』と、スタッフの明るさに励まされて楽しく過ごしています。富山型の実際に触れてみませんか。」

(連絡先)NPO法人江戸川・地域・共生を考える会 代表 高村ヒデ 03-3675-9670



昼食後の団らん